

# 違いが生み出す 新たな魅力

## 多文化共生 共創社会

日本人・ケニア人・両国ルーツの子



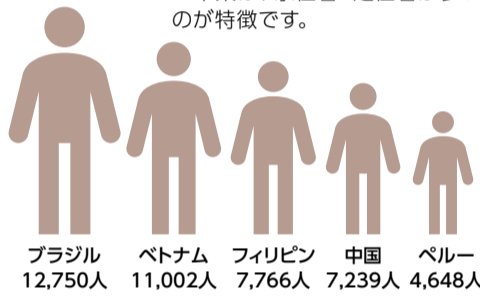
家族に外国人がいる家庭は約4万3千世帯※2

6万1千人<sup>※1</sup>！この数字は県内で暮らす外国人の人数です。県民の約100人に3人は外国人で、その数は年々増加。コンビニや飲食店などで働く外国人を見掛けることも増え、より身近になってきています。

労働力不足を背景に外国人の受け入れが進む一方で、言葉や文化の違いから、お互いに戸惑いや不安を感じることも少なくありません。共に群馬で暮らし、仲間として良い関係を築いていくためにはどうしたらよいでしょうか。外国人との共生・共創社会の実現に向けて、一緒に考えていきませんか。

県内に住んでいる外国人<sup>※1</sup>

人口に占める外国人の割合は全国3位。ブラジル人が最も多く約1万3千人。続いて、ベトナム、フィリピン、中国、ペルー。工業地域が多く、仕事があり住みやすい本県は、永住者・定住者が多いのが特徴です。



### 県が進める多文化共生・共創とは？

**多文化共生**…外国人が安心して暮らし続けられるよう、「やさしい日本語」の普及や外国人の子どもへの支援などを行っています

**多文化共創**…外国人と共に新たな価値を創造できるよう、外国人も活躍できる「働く場づくり」の支援などを行っています

### 全国初！多文化共生・共創を条例化

みんなで社会のルールを守りつつ、新しい価値を創り出す群馬を実現するため、4月に全国で初めて多文化共創を盛り込んだ「群馬県多文化共生・共創推進条例」を施行しました。

10月は

くま多文化共生・共創推進月間



## 共生・共創の取り組み

外国人が必要としている教育や防災に関する共生の取り組みと、県内で芸術活動を展開する共創の取り組みを紹介します

### 共生

#### 学校の授業をサポート 外国人の子どもなどへの支援



教科学習支援事業(大泉町)

保護者が外国人である子どもの家庭では、多くの場合、日常生活で母国語が使われています。そのため、日本語で行われる授業の内容を理解したり、自分の考えや意見を的確に伝えたりすることが難しい子どもには、学習支援が必要です。

1月にブラジル人学校から地元小学校に転入したケンジくん(5年生)。毎週土曜日の午後に開催される支援事業に参加しています。「分からないところをすぐに先生に聞けます」と熱心に取り組んでいます。



ゴンザレス・ケンジくん [ブラジル国籍]  
得意な教科は算数。将来は建築家になって、ビルを建てたいです。サッカーが好きです。

### 共生

#### 非常時に備えて 外国人住民のための防災訓練



煙体験(前橋市)

県は市町村と連携して、外国人住民を対象とした防災訓練を毎年実施しています。外国では避難所がない国もあり、避難方法や避難所での過ごし方を学ぶことが大切です。



ノヴァ・スミハルティニさん [インドネシア国籍]  
災害に備えて、何を準備するべきか分かりました。防災かばんを作って、事前に準備しようと思います。



フレルバートル・ポルトヤさん [モンゴル国籍]  
ハザードマップが改訂され、水害時の避難所が変更されていました。事前に知ることができて良かったです。

### 共創

#### 芸術で地域を盛り上げる アーティスト・イン・レジデンス<sup>※3</sup>



キール・ハーンさん [アメリカ国籍]  
2002年にALT(外国語指導助手)として来日後、藤岡市鬼石に移住。古民家を改修し、芸術活動を行いながら地域交流を図る

鬼石地区は、温かい人たちばかりです。活動当初は、知らない人ばかりで入りづらい雰囲気もありましたが、鬼石夏祭りなどの地域行事に何度も参加し、次第に地域の人たちと仲良くなりました。特に夏祭りの熱量はこれまで体験したことがないので、よりこの地域が好きになりました。

鬼石は自然や人情味が豊かで、観光地としての魅力だけでなく、自分だけの魅力を発見する喜びもあり、芸術活動に最適です。芸術は敷居が高いと思われがちですが、もっと身近に感じてほしいです。私は運営する古民家に滞在したアーティストと一緒に、地域の人と交流できるワークショップを開催してきました。将来的にはアートで地域を盛り上げたいと思っています。鬼石の皆さんとそんな場を作っていきたいですね。



古民家に展示される作品の数々



古民家に滞在したアーティストと

※1：数字は2年12月末時点 ※2：数字は3年9月末時点 ※3：一定の期間、ある土地に滞在し、創作活動を行うこと